

# 小中一貫教育Q&A

**Q 小中一貫教育になれば、小学生も中学校へ通うようになるのですか？**

A 田原小中学校と富雄第三小中学校以外の中学校区は、日常的に小学生が中学校へ通うことはありません。ただし、中学校区の実態に応じて、合同授業や交流学习の実施などを進め、連携をさらに密にしていきます。

**Q 小学校の卒業式はなくなるのでしょうか？**

A 奈良市の小学校はこれまでどおり卒業式を実施します。

**Q 中学1年生ではなく、7年生と呼ぶようになるのですか？**

A 現在、田原小中学校・富雄第三小中学校では、そのように呼んでいます。しかし、それ以外の学校では、これまでどおり、中学1年生、中学2年生、中学3年生と呼びます。

**Q P T Aの組織も小中一貫になるのでしょうか？**

A これまでも、小学校と中学校のP T Aは連携をとっていただいていたかと思います。現在、組織自体が一つになることは想定していませんが、中学校区内の小学校や中学校のP T A同士で連携をより深めていただくことによって、小中一貫教育が推進されると考えています。

**Q 中学校の先生が小学生に英語を教えてくれるのですか。**

A 基本的には、小学校の外国語科の授業は、小学校の教員が教えます。奈良市では、平成26年度の2学期から、A L T（外国語指導助手）の数を増員し、教員とA L Tの協働した授業を展開しています。

**Q** コンピュータやICT機器の積極的活用はどのように進めるのですか。

A 今までの小中一貫教育パイロット校では、総合的な学習の時間の中で情報科として学習してきました。その実績をもとに、小学校低学年・中学年・高学年・中学校別に、情報に関するスキルやモラルを身につける指標を設定しました。これをもとに、各教科の中で情報に関するスキルやモラルを身につけられるよう小中一貫した学習を進めます。

**Q** 世界遺産学習は、小中一貫教育の中でどのように進めるのですか。

A これまでも、すべての奈良市立の幼稚園・小学校・中学校・高等学校で世界遺産学習に取り組んできました。小中一貫教育全市展開を機に、学習内容を整理し、すべての小中学校で学習する内容を整理しました。各校園では、これをもとに、地域に根ざした探究的な学習を系統的に行います。

**Q** 小中一貫教育について教員はどのように感じていますか。

A 平成 25 年度に実施した教職員アンケートにおいて、小中の教職員が連携して指導に当たる必要性を感じていると答えた教員は、年々割合が高くなり、平成 25 年度はパイロット校では 80% に達しています。

**Q** 小学校低学年からの外国語科は本当に必要なのでしょうか。

A 早い段階から英語に慣れ親しみ、異文化に触れることで、積極的にコミュニケーションを図ろうとする素地を養うことができると考えています。国も英語教育に一層力を入れていく方向です。

**Q** 小中一貫教育は、何か法律的な裏付けがあるのですか。

A 学習指導要領には、学校間の連携の必要性がうたわれています。また、国では、小中一貫教育の制度化に関する審議が進んでいます。

**Q** 小中一貫教育を実施している自治体はほかにもあるのですか。

A 平成 26 年 9 月に発表された文部科学省の実態調査によりますと、全国 1743 自治体のうち、小中一貫教育や小中連携教育を実施している割合は 88% という結果が出ています。